



岡山県立図書館第5次中期サービス目標

未来に「つなぐ・ひらく・いきる」図書館を目指して

令和8年3月
岡山県立図書館

はじめに

このたび、岡山県立図書館では、県民の皆様に一層充実した図書館サービスを提供すべく、新たなサービス目標を策定いたしました。

岡山県立図書館は、令和6年度に開館20周年を迎えました。基本的な運営方針である「5つの基本的性格」(1 県民に開かれた図書館、2 県域の中核としての図書館、3 調査・研究センターとしての図書館、4 メディアセンターとしての図書館、5 資料保存センターとしての図書館)を示した岡山県立図書館基本構想(答申)(平成10年)、岡山県立図書館基本計画(平成11年)からすでに四半世紀が経過しました。これまで当館は、これらを踏まえて、サービス計画を策定し、5年ごとの中期サービス目標を立ててきました。

県内どこに住んでいても、誰でも等しく図書館サービスが受けられるよう、市町村の図書館等と連携し、目標の実現に努めてきましたが、デジタル技術の進展、少子高齢化、地域コミュニティの希薄化など、図書館を取巻く環境は大きく変化し続けています。

そこで、今回第5次中期サービス目標を策定するに当たり、こうした変化に十分対応できているかどうかや図書館運営の持続可能性などの観点を踏まえ、当館が目指す2040年頃の図書館像を描きながら、長期的な視点にも立って検討を加えました。

開館以来、図書館運営の基本方針としてきたの「5つの基本的性格」のうち、「メディアセンターとしての図書館(第3次からはデジタルネットワークに対応した図書館)」は、すべてのサービスの基盤にデジタル技術、デジタルネットワークが構築されるべきものとして再定義し、基本的性格からは外すことといたしました。そして、第2次中期サービス目標以降ずっと重点プログラムとして継続的に取り組んできた「子ども読書」を基本的性格として新たに加えることとして、第5次の中期サービス目標をとりまとめました。

策定に当たりましては、多くの関係者、県民の皆様から貴重なご意見やご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

「晴れの国おかやま」の県立図書館は、これまで以上に市町村立図書館等と連携を取りながら、県内どの地域であれ、また年齢などを問わずすべての人々が、まさに降り注ぐ太陽の光のように等しく図書館サービスを継続して受けられるよう、未来に「つなぐ・ひらく・いきる」図書館を目指し、その実現に向けて努力してまいります。

令和8年3月〇日

目次

序章 第5次中期サービス目標について

成果と課題

第1章 長期目標 岡山県立図書館のこれからのカタチ (オカリブビジョン)

第2章 中期サービス目標 令和8年度～令和12年度5年間の取組

ロードマップ

第5次中期サービス目標の推進について

序章



第5次中期サービス目標について

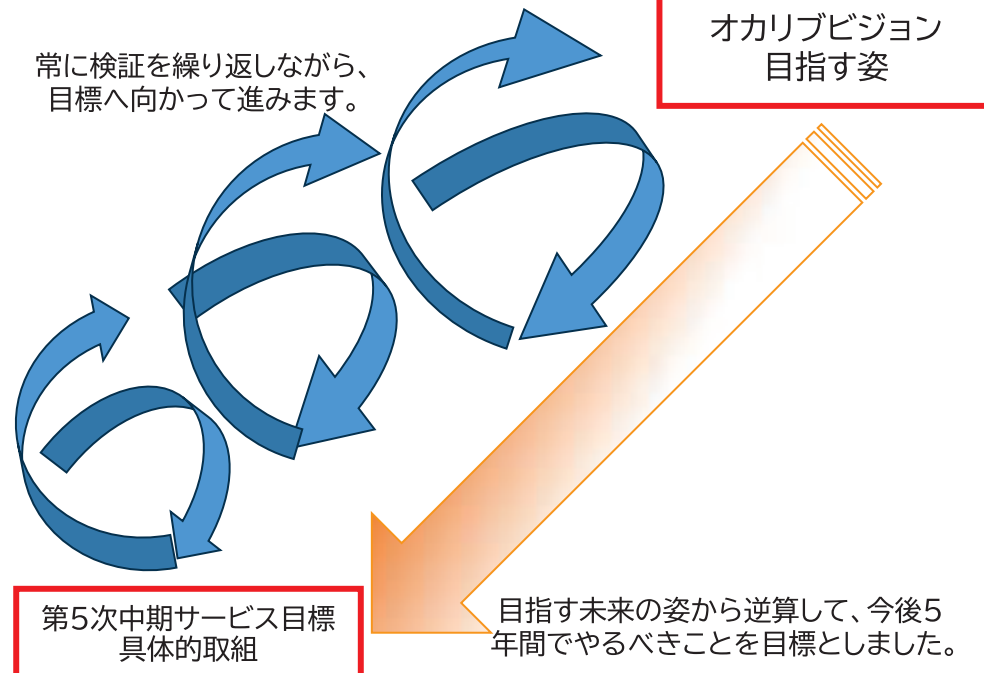


未来に「つなぐ・ひらく・いきる」図書館

01 県民に開かれた図書館	02 県域の中枢となる図書館	03 調査・研究センターとしての図書館	04 子どもの読書と学びを支える図書館	05 資料保存センタとしての図書館
------------------	-------------------	------------------------	------------------------	----------------------

岡山県立図書館の目指す姿と基本的性格

常に検証を繰り返しながら、
目標へ向かって進みます。



(1)構成

第5次中期サービス目標は、2040年頃までに目指す岡山県立図書館の姿を示す将来の長期目標(通称「オカリブビジョン」)と、その実現に向けた今後5年間の具体的な取組の2つからなっています。

策定に当たっては、『図書館法』、『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準』等の国の法、基準等に準拠するほか、『晴れの国おかやま生き生きプラン』、『岡山県教育大綱』『岡山県教育振興基本計画』等の本県の計画、基本方針に準拠しています。

(2)計画期間

中期サービス目標の具体的な取組期間は、令和8(2026)年度から12(2030)年度までの5年間とします。

計画期間中も、毎年度自己評価を行い、次年度以降の改善に活かすとともに必要に応じて計画の見直しを行います。

また、「オカリブビジョン」も、県の計画や基本方針等の進捗や社会情勢の変化を反映し、場合によっては見直しを行います。

序章

成果と課題

岡山県立図書館は、基本計画（平成11年7月公表）で示した5つの基本的性格を中心に、多様な図書館サービスを展開してきました。

県民に開かれた図書館としては、全国の都道府県立図書館の中で、入館者数、貸出冊数は、長期にわたり日本一を維持してきました。

県域の中核図書館としては、市町村立図書館や図書館未設置自治体、学校図書館への貸出などの資料支援とともに、図書館関係職員への研修の実施などを通じ、県内図書館の振興に努めてきました。県全体として、県民が1年間に公立図書館から借りた本の数は6冊を超え、全国3位となっています。

調査・研究センターとしては、主題別6部門制のものときめ細かなレファレンス対応を実施し、平成28年、30年には「地方創生レファレンス大賞」を受賞しました。

デジタルネットワークに対応する図書館としては、全国の図書館に先駆けて構築した電子図書館システム「デジタル岡山大百科」の充実に努めてきました。県民参加によるデジタルコンテンツの充実是全国からも注目を集め、県危機管理課と連携した「西日本豪雨災害」のアーカイブ化は高い評価を受けました。

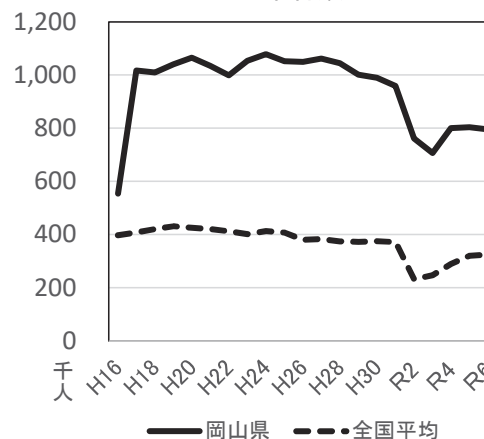
資料保存センターとしては、全国トップクラスの資料整備費により、豊富な蔵書を整備し県民のニーズに応えるとともに、県内市町村立図書館等から移管資料の受け入れをすすめ、県域における資料の永続的な活用が図れるよう努めてきました。

このように岡山県立図書館は、開館以来あらゆる面で長年にわたり、全国都道府県立図書館の中でトップクラスのサービスを提供し続けてきていますが、県民ニーズの多様化やスマートフォンをはじめとする情報機器の普及、感染症の拡大による意識の変化の影響など様々な要因により、利用は全体に下降傾向にあります。市町村立図書館の利用登録者数は県全体で6割を超えているとはいえ、全県民に図書館サービスが浸透しているとは言えません。電子書籍の導入を含む非来館型のサービスの拡充や来館することが困難な方へのサービスの提供など、多様なサービスの展開も待たれています。

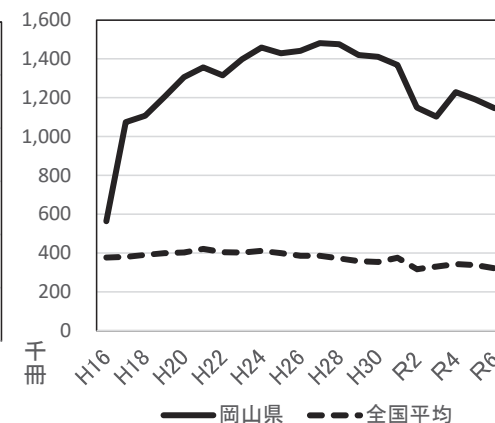
また、平成の大合併と新館建設が相次いだことにより、県内では1自治体を除き26市町村で図書館が整備されました。しかしながら、資料整備費の削減や職員の非正規化など課題を抱えているところも少なくなく、自治体間の図書館サービスの格差も懸念され、県立図書館の支援の充実が更に期待されています。

子どもの読書活動の推進については、重点プログラムを設け長年取り組んできましたが、岡山県の調査によると、1か月の間に本を1冊も読まない児童生徒の割合は、上昇と低下を繰り返しており、校種が上がるにつれて不読率が上昇する傾向も改善されていません。読書活動は、語彙力、読解力をはじめ、あらゆる学習の基礎となる認知能力を育てるとされています。読書活動や探究学習など子どもたちの学びに重要な役割を果たしている学校図書館の活性化にむけ、更なる支援の充実が必要とされています。

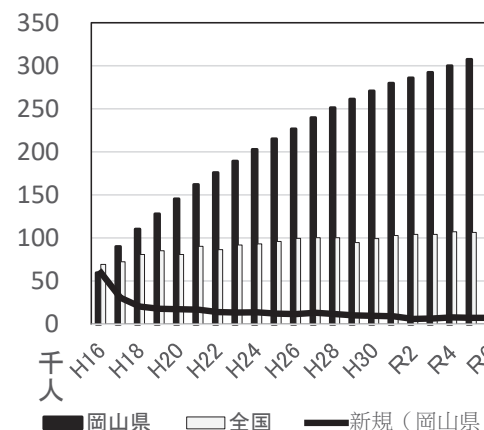
入館者数



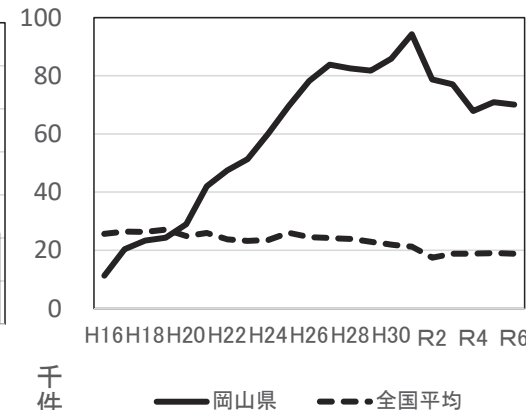
個人貸出冊数



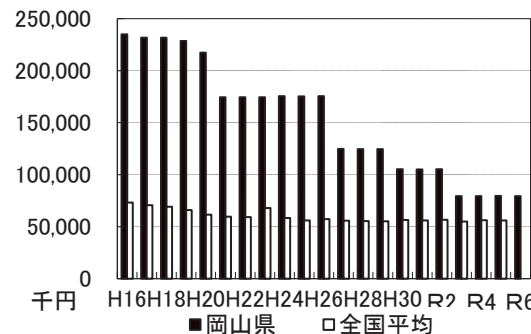
個人登録者数



レファレンス受付件数

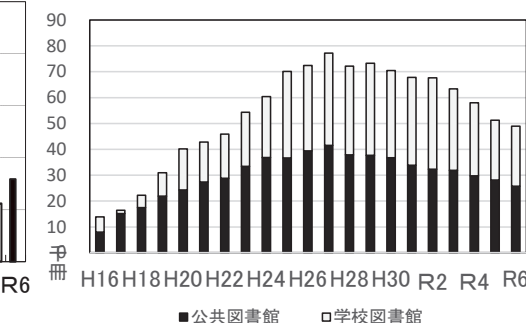


資料整備費予算額



協力貸出冊数

館内用図書、公共図書館、学校図書館への貸出



第1章 長期目標

岡山県立図書館のこれからのカタチ（オカリブビジョン）

2040年頃までに目指す岡山県立図書館の姿を示しています。

構成は、5つの柱のもとに、図書館の機能とそれを発揮するためのサービスの方針を4つ、それによって実現したい県民や社会の状態、こうなっていてほしいかたちをそれぞれ2つまたは3つ示しています。

一直線にここにたどり着くことはできませんが、おおむね5年ごとに具体的取組である中期サービス目標を設定し、検証を繰り返しながら、「オカリブビジョン」の実現を目指し、持続可能な図書館運営を進めていきます。

岡山県立図書館のこれからのカタチ（オカリブビジョン）

未来に「つなぐ・ひろく・いきる」図書館

つなぐ 本と人、人と人、図書館と図書館をつなぎます。

県立図書館は、地域の図書館とともに県域に広がる図書館ネットワークを構成し、県民と資料や情報をつないでいます。県民は、図書館の機能を十分に活用し、集い交流する中で、人と人のつながりを深めています。

ひろく だれにでも開かれた図書館が、未来を拓きます。

県立図書館は、いつでも、どこでも、だれにでも開かれた安心できる居場所となっています。県民は、図書館で課題を解決し、自らの可能性をひろげ、新たな価値を創り出し、未来をきり拓いています。

いきる 県民に寄りそい、人生をより豊かに彩ります。

県立図書館は、県民のニーズと時代の変化に対応し、進化し続けています。県民は、図書館で充実した時間を過ごし、趣味や仕事、子育て、学びなど、生活のさまざまな場面で、自分らしく幸せに生きています。

子どもたちも、読書を通じて、心豊かに、たくましく、未来へ夢を描いています。

基本的性格

県民に開かれた図書館

1 だれもが自由にいつでも

県立図書館は、すべての人が情報を得て社会とつながり、交流できる居場所となっています。誰もがライフステージやニーズに寄り添ったサービスを受けることができ、彩りのある豊かな毎日を送ることができています。



県立図書館の取組 → めざすカタチ

多様なニーズに寄り添ったサービスを提供します

子どもから高齢者まで誰もが笑顔で生涯使える図書館になっています。

障害や病気の有無、国籍などに関係なく、図書館のサービスを受けられます。

デジタル技術を積極的に取り入れます

いつでも、どこでも、図書館の情報にアクセスできます。

オンラインにより、利用の申込などさまざまな手続きができます。

新しい技術によって、自分にぴったりの本や情報と出会えます。

安心できる居場所、交流できる場となります

居心地の良い空間で、誰もが安心して、思い思いに過ごせます。

一人で静かに読書や学習ができる場と仲間と交流できる場を使い分けられます。

みなさんと一緒に、図書館をつくりま

自分たちのアイデアや企画がサービスに活かされ、図書館をもっと楽しく、もっと役立つ場所にできます。

図書館でのボランティア活動などを通じて地域に貢献し、社会とつながります。

取組のアイデア（例） 外国語を含む電子書籍の導入、デジタル創作体験、図書館アプリ、バーチャル図書館、目的に応じた多様な空間の提供、県民参加による企画、体験型イベント、案内ロボット、推し本トーク会

基本的性格

県域の中枢となる図書館

2 つながるひろがるささえあう

県立図書館は、ヒト・モノ・コトの架け橋となって、県内外の図書館等をつないだネットワークを形作っています。誰もが、県内のどこにいても充実した図書館サービスを受けられ、情報へのアクセスが保障されています。



県立図書館の取組 → めざすカタチ

県内の図書館を活性化します

市町村の図書館は、県立図書館と協働したり、地域の状況に応じた支援を活用したりしながら、活気づいています。

県内どの地域の人も、身近な図書館が生活のさまざまな場面で役立つことを実感し、活用しています。

県内の図書館で働く職員を支援します

市町村の図書館は、県立図書館にいつでも相談でき、幅広い情報を得ながら、より良いサービスを提供しています。

県内の図書館職員等の研修が充実し、どの図書館でも質の高いサービスを受けられます。

図書館を含む関係機関とのネットワークを広げ、強化します

県内の図書館が連携・協力し、幅広い資料・情報を便利に入手できます。

図書館以外の関係機関や県外の図書館などにも、ネットワークが広がっています。

県立図書館に行かなくても利用できるサービスを広げます

デジタル技術の活用により、いつでもどこでも図書館のサービスにアクセスできます。

市町村の図書館を利用しながら、県立図書館のさまざまなサービスを受けることもできます。

取組のアイデア（例） 市町村の図書館と共同したサービスの開発、市町村の図書館の状況に応じたきめ細かな支援、司書の人的ネットワークを推進、本の取り寄せや返却の利便性向上（サービスポイントの増設）

第1章 長期目標(オカリブビジョン)

基本的性格

調査・研究センターとしての図書館

3 まなぶ みつける つくりだす

県立図書館は、豊富な資料と調べものの専門家である司書を通じて、身近な疑問や地域・社会の課題など、知りたい、解決したい、をお手伝いしています。誰もが、生涯学び続けられる環境の中で、自ら情報を集め活用する力を磨き、新たな価値を創り出しています。



県立図書館の取組 → めざすカタチ

主題別部門制による

司書の専門性を

活かして、
調査・研究を
サポートします

専門性の高い調査・研究に必要な資料の相談ができます。

県立図書館だけで疑問や課題が解決しない時は、他の図書館の資料や関係機関の情報も活用できます。

地域課題の

解決に貢献して、
岡山県を
活性化します

地域の課題を解決するためのアイデアやヒントが見つかります。

ビジネスに役立つ情報や学習機会、関連機関とのつながりを得られます。

企業や行政、NPOなどの団体が図書館を活用して地域課題の解決に取り組んでいます。

身近な疑問や

課題を解決して、
暮らしを
充実させる
お手伝いをします

子育て・健康・法律などの困りごとを解決するための手がかりが得られます。

充実した資料や施設、多彩な講座などによって、好奇心や探究心が刺激され、新たな気づきが生れます。

県民の学びの

成果を、新たな
創造につなげる
場となります

デジタル技術の活用など、必要な情報を使いこなす力を身に付けられます。

図書館で得た知識や情報によって生まれた新たな創造を、県立図書館から発信できます。

リアルな場やバーチャルな空間で交流し、成果発表やアイデア共有などができます。



取組の

アイデア (例)

資料の充実、データベース（情報資源）活用講座、関係機関との連携強化、研究スペース・交流スペースの整備、メタパースの導入、県民が発表・情報交換できるイベント、学生の学習・研究支援

基本的性格

資料保存センターとしての図書館

5 のこす つたえる わかちあう

県立図書館は、市町村の図書館と役割分担しながら、郷土岡山の地域資料をはじめ、様々な資料を幅広く収集し、後世にわたり活用できるよう、利用しやすく整理・保存しています。誰もが、収集された資料を用いて、文化の継承や情報の発信に役立てることができています。



県立図書館の取組 → めざすカタチ

資料を収集・
整理・保存して
利用に役立て、
後世に残します

必要な資料が、きちんと保存されていて、いつでも利用できます。

市町村の図書館ではそろえることが難しい充実した専門書や学術書を使って調査・研究をすることができます。

デジタル技術を活用して、
県立図書館の
資料を誰もが
利用しやすい形で
共有します

郷土の貴重な資料はデジタル化され、いつでもアクセスできる形で公開されています。

デジタル化された資料は、さまざまな形で簡単に利用することができ、それらを応用して新たな価値を生み出せます。

みなさんと一緒に
岡山の文化や
魅力を伝えて
いきます

岡山の歴史・文化に関わりの深い吉備文化資料、交通文化資料の充実したコレクションを利用できます。図書館や地域の書店、出版社とともに、岡山の読書文化を守り、郷土の魅力を記録・発信できます。

デジタル
情報資源への
アクセスを
保障します

いつでも、どこでも、電子書籍などのデジタルコンテンツにアクセスできます。

図書館を介して、紙の本に加えてデータベースなどインターネット上の情報にアクセスし、活用できます。



取組の

アイデア (例)

地域の書店と連携したイベント、地域資料の作成や記録を残す活動を支援、デジタルアーカイブのオープンデータ化、デジタルアーカイブ活用コンテスト

基本的性格

子どもの読書と学びを支える図書館

4 よむ はぐくむ 未来をえがく

県立図書館は、市町村の図書館、学校図書館、民間団体等と連携を図りながら、子ども読書活動推進センターとしての役割を果たしています。子どもたちの誰もが、読書に親しみながら想像力と探究心を育み、夢を描くことで、自分の世界をより豊かに広げられるようになっています。



県立図書館の取組 → めざすカタチ

子どもの世界が
広がる取組
をします

たくさんのワクワクドキドキする本と出会えます。

体験の場や静かな学びの場があり、多様な価値観が育ちます。

子どもたちのアイデアが図書館のサービスに活かされ、自らの挑戦にもつながります。

子どもたちが
自分で課題を
見つけ、
解決できるよう
応援します

図書館を使って、「知りたい」「やってみたい」を実現する力が身につきます。

学校外での学習拠点として、課題を解決するためのヒントを得たり、成果を発表したりする場が設けられています。

学校図書館
などの活動を
支援します

学校図書館は、県立図書館を活用しながら、探究学習をはじめ、身近な学びの拠点、読書活動の場となっています。

保育施設や放課後児童クラブなどでも読書推進が行われ、子どもたちが読書に親しんでいます。児童図書研究室を活用し、子どもの読書に関わる調査・研究を行います。

子育て中の人や
子どもに関わる
大人の活動を
支援します

充実した資料や講座を通じて、子どもの育ちや読書に関する知識や情報を得られます。

子育て中の人や子どもに関わる幅広い世代の人と交流できます。

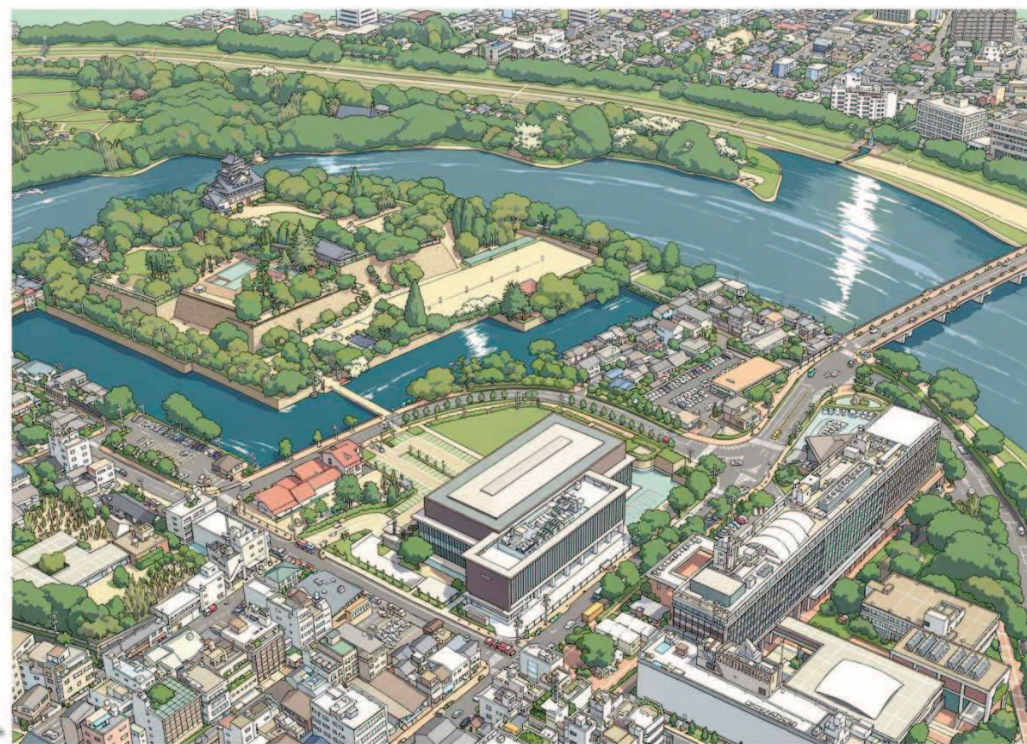
地域の様々な場所で子どもの読書に関わるボランティアが活躍しています。



取組の

アイデア (例)

児童書の全点収集、子ども司書の育成、中高生ボランティアによる企画、体験型イベント、学びの成果発表の場、学びのオンラインコンテンツ、多世代交流イベント、子育て中親子の居場所づくり



第2章 中期サービス目標

令和8年度～令和12年度5年間の取組

サービス目標は、今までの成果と課題を踏まえ、当館の目指す姿である「オカリブビジョン」を念頭に、令和8年度～令和12年度5年間の具体的な取組について目標を設定しています。2040年頃の県立図書館の姿である「オカリブビジョン」実現へ向けて、おおむね5年ごとに「初動期」「実働期」「飛躍期」と3つの段階を設定し、この5年間は初動期であり、図書館のサービス基盤の見極めを行っていく期間と位置付けました。本目標を策定するに当たっては、寄せられた県民の声を生かした新たな取組も盛り込みました。5つの基本的性格を柱とし、各柱に重点目標を1つと推進目標を2つをもうけました。それぞれの目標ごとに具体的な取組内容を優先度の高いものから記述しています。5つの基本的性格は、それぞれ独立したのではなく、互いに関連しあい、相乗効果によって、より充実した図書館サービスの提供を目指します。また、それぞれの目標ごとにサービス指標を設定し、毎年度の進捗状況を数値で把握していきます。

1 県民に開かれた図書館
だれもが 自由に いつでも

- ①多様なニーズに応じたサービスを提供します
- ②デジタル技術に対応したサービスを提供します
- ③居場所や交流拠点として活用されるよう、活動場所や活動機会の提供などに取り組みます

2 県域の中核となる図書館
つながる ひろがる ささえあう

- ①県内の図書館との協働による事業実施や運営支援により、県内の図書館活動の活性化につなげます
- ②幅広い資料をより便利に利用できるよう関係機関とのネットワークを広げます
- ③デジタル技術を用いて県立図書館に行かなくてもサービスを利用できる仕組みを整えます

3 調査・研究センターとしての図書館
まなぶ みつける つくりだす

- ①主題別部門制の特色を生かした幅広いレファレンスが行えるよう、司書のスキルを向上し、調査研究への支援体制の充実を図ります
- ②暮らしや仕事に一層役立つ図書館として、県民の身近な課題の解決を支援します
- ③県民の学習・研究活動を支援し、そこから得た様々な学びの成果を発表する場を提供します

4 子どもの読書と学びを支える図書館
よむ はぐくむ 未来をえがく

- ①子どもたちに豊かな読書体験を提供して、図書館の利用促進と不読率の低減を目指すとともに、子どもたちが自ら課題を発見し、解決できる力を育む環境をつくります
- ②学校図書館の活動に関わる団体等と連携協力しながら、主体的・対話的で深い学びが効果的に実施できるよう、学校図書館への支援を充実します
- ③子育て中の人や読書ボランティア団体など、子どもに関わる大人への支援を充実します

5 資料保存センターとしての図書館
のこす つたえる わかちあう

- ①県民や県内の図書館からの資料要求に応えられるように、効率的な資料収集に努め、将来にわたり利用できるよう保存します
- ②県民参加で岡山の歴史や文化など郷土関連資料を収集し、広く発信します
- ③デジタル化された情報に誰もがアクセスしやすくなるよう環境を整え、それらの情報を活用する方法についても広めていきます

第5次中期サービス目標のサービス指標一覧

指標名		現況値 (R4～R6の平均値)	R12年度末 目標値(a)
県民に開かれた 図書館	①新規登録者数	7,522人	毎年度 7,500人 以上
	②ホームページアクセス数	950,825件※	毎年度100万件以上
	③来館者数	799,304人	毎年度 80万人 以上
県域の中核となる 図書館	④図書館職員等研修講座の満足度	4.6	毎年度4.6以上
	⑤他機関との連携数	66件	毎年度 75件以上
	⑥公立図書館における県民一人当たりの貸出冊数	6.01冊	毎年度6.0冊以上
調査・研究センター としての 図書館	⑦レファレンスサービスの認知度	65.10%	最終年度に70%以上
	⑧レファレンスの受付件数	69,628件	毎年度70,000件以上
	⑨県立図書館単独主催講座のうち役に立ったと答えた人の割合	85.9%	毎年度85%以上
子どもの読書と学びを 支える 図書館	⑩児童資料の貸出冊数	358,666冊	毎年度36万冊以上
	⑪学校図書館への協力貸出利用率	61.2%	最終年度に80%以上
	⑫児童サービスボランティアスキルアップ講座の活用度	4.6	毎年度4.5以上
資料保存センター としての 図書館	⑬貸出冊数	1,188,372冊	毎年度110万冊以上
	⑭デジタル化した郷土資料点数	25点	毎年度25点以上
	⑮デジタル岡山大百科(郷土情報ネットワーク)の閲覧件数	470,028件	毎年度50万件以上

※R4、R5の統計データが存在しないため、データが存在するR6.4～R7.12の平均から年度あたりの数値を算出

第2章 中期サービス目標

県民に開かれた図書館

基本的性格 1 だれもが自由に

重点目標と取組

多様なニーズに応じたサービスを提供します

- オンラインでの対面朗読やデジター図書(※1)のさらなる活用を通して読書バリアフリーを推進します。
- やさしい日本語に対応した利用案内や館内表示、指差しシート、翻訳アプリなどを使って、外国人をはじめ日本語の理解が難しい人にも利用しやすい環境をつくります。
- 障害者サービス等において、ボランティア向け講座の開催など県内の図書館や関係機関との連携を一層強化します。
- 手話通訳や要約筆記の導入など、イベントのバリアフリー化に取り組みます。
- 県民の多様なニーズを把握するため、未利用者の意見聴取方法の研究を進めます。

※1「デジター」とは、「Digital Accessible Information System」の略で、「利用しやすい情報システム」(デジタル録音図書の国際標準規格)のこと。特徴に、目次から読みたい章や節、任意のページに飛ぶことができる、最新の圧縮技術で一枚のCDに50時間以上も収録が可能である、音声にテキストや画像を同期させることができる等がある。専用再生機器のほか、デジター再生ソフトがインストールされたパソコン等で聴くことができる。

推進目標と取組

デジタル技術に対応したサービスを提供します

- SNSを活用した積極的な広報を行い、県立図書館を利用したことがない人や利用に困難を抱える人にも県立図書館の情報を届けます。
- 電子書籍サービスの導入に向けて、収集基準の見直しなど具体的方策に取り組みます。
- 利用者登録、講座・イベントの申込み、施設利用の申込みなどの各種申請のオンライン化を進めます。
- ウェブアクセシビリティ規格(※2)への配慮など、誰もが利用しやすいホームページに改善します。

※2ウェブアクセシビリティ規格
JIS X 8341-3:2016『高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ』のこと。高齢者や障害のある人などが、ウェブコンテンツを利用する際のアクセシビリティを確保するために配慮すべき事項を規定したもの。

いつでも



県立図書館は、すべての人が情報を得て社会とつながり、交流できる居場所となっています。

誰もがライフステージやニーズに寄り添ったサービスを受けることができ、彩りのある豊かな毎日を送ることができています。

推進目標と取組

居場所や交流拠点として活用されるよう、活動場所や活動機会の提供などに取り組みます

- ニーズに応じた利用ができるよう、ゾーニングの実施や施設の修繕・改修を進めます。
- 大学生や高校生をはじめとする県民からの提案型企画の募集など、県立図書館を通じた地域貢献や人との繋がりを深める機会を提供します。
- 芝生広場やエントランス、有料貸出施設について、新たな活用方法を検討します。

サービス指標

新規登録者数	現況値(R4～R6の平均値)	7,522人
	毎年度 目標値	7,500人以上
ホームページアクセス数	現況値※	950,825件
	毎年度 目標値	100万件以上
来館者数	現況値(R4～R6の平均値)	799,304人
	毎年度 目標値	毎年度80万人以上

※R4、R5の統計データが存在しないため、データが存在するR6.4～R7.12の平均から年度あたりの数値を算出

第2章 中期サービス目標

県域の中核となる図書館

基本的性格

2 つながる ひろ

重点目標と取組

県内の図書館との協働による事業実施や運営支援により、
県内の図書館活動の活性化につなげます

- 県立図書館市町村担当者制度や巡回相談、講師派遣制度、レファレンス（調査相談）などを通して、県内の図書館の運営を支援します。
- 研修や実習受入、人事交流を通じて、県内の図書館職員のスキル向上とノウハウ共有を促進します。
- 県内の図書館とイベントや展示を共同開催します。
- 県内の図書館のサービス向上につなげるため、デジタルツールを活用し、図書館に関するさまざまな情報を県内の図書館職員と共有します。
- サビエ図書館（※3）の活用を一層進めるため、県内の図書館へノウハウを提供します。

※3サビエ図書館
視覚障害のある人及び視覚による表現の認識に障害のある人に対して点字データ、デジタイズデータ等を提供するネットワーク。日本点字図書館がシステムを管理し、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営を行っている。正式名称は「視覚障害者情報総合ネットワーク」。

推進目標と取組

幅広い資料をより便利に利用できるよう関係機関とのネットワークを広げます

- 県内どこからでも資料が利用できるよう、横断検索と資料搬送の安定的なネットワークを維持します。
- 全県的な図書館サービスの拡充に向け、大学図書館協議会との情報交換など関係団体との連携を深めます。
- 博物館や美術館、社会教育施設、行政機関などとの連携を強化し、図書館の資料にとどまらない多様な情報を提供します。

がる ささえあう

県立図書館は、ヒト・モノ・コトの架け橋となって、県内外の図書館等をつないだネットワークを形作っています。誰もが、県内のどこにいても充実した図書館サービスを受けられ、情報へのアクセスが保障されています。



推進目標と取組

デジタル技術を用いて県立図書館に行かなくてもサービスを利用できる仕組みを整えます

- 県内の図書館での岡山県立図書館利用者登録、インターネット予約サービス、資料相互返却サービス（※4）を進めます。
- オンライン受講が可能な研修講座の実施とともに、研修動画をデジタル保存し、いつでも学べる機会を提供します。
- 県立図書館のデータベースサービスや電子書籍サービスについて、市町村立図書館でも利用できるよう、共同利用に関する研究を進めます。

※4資料相互返却サービス
岡山県立図書館で借りた資料を県内（岡山市内の一部を除く。）の図書館等で、市町村立図書館等で借りた資料を岡山県立図書館で返却することができるサービス。

サービス指標

図書館職員等研修講座の満足度	現況値（R4～R6の平均値）	4.6
	毎年度 目標値	毎年度4.5以上
他機関との連携数	現況値（R4～R6の平均値）	66件
	毎年度 目標値	毎年度75件以上
公立図書館における県民一人当たりの貸出冊数	現況値（R4～R6の平均値）	6.01冊
	毎年度 目標値	毎年度6.0冊以上

第2章 中期サービス目標

調査・研究センターとしての図書館

基本的性格 3 まなぶ みつける

重点目標と取組

主題別部門制(※5)の特色を生かした幅広いレファレンスが行えるよう、司書のスキルを向上し、調査研究への支援体制の充実を図ります

- 研究グループ(※6)による共同研究や個々の研究活動を通して、県立図書館司書のスキルを向上させ、質の高いサービスを提供します。
- 県内外の図書館や博物館、専門機関との連携を通して、レフェラルサービス(※7)の充実を図り、専門性の高い調査相談に対応します。
- 県内の図書館と連携し、レファレンスサービスの周知に取り組みます。

※5 主題別部門制
岡山県立図書館では、参考資料、人文科学資料、児童資料、社会科学資料、自然科学・産業資料、郷土資料の6つの部門に分けて、資料とカウンターを配置。各部門では専門的知識を有する職員が資料の収集・提供・相談などのサービスにあたっている。

※6 研究グループ
岡山県立図書館内に設置した、課・班の枠を超えたチームで共同研究を行う職員研修組織。県立図書館職員のスキルアップとともに、研究成果は、県内図書館等で実施される研修会への講師派遣や自館の業務改善に活用している。

※7 レフェラルサービス
情報を求める利用者に対し、その情報源や詳細な情報を有する専門機関などを紹介するサービス。

推進目標と取組

暮らしや仕事に一層役立つ図書館として、県民の身近な課題の解決を支援します

- オンラインレファレンスの活用促進とともに、課題解決に役立つレファレンス事例を蓄積し、レファレンスデータベースの充実を図ります。
- 調べ方の道筋を紹介するパスファインダーやブックリストなどの調査研究に役立つツールを周知するとともに、ツールが更に活用しやすくなるよう工夫します。
- 専門家や様々な機関、県庁各課などと連携し、相談会やセミナーの開催、企画展示など、課題解決に役立つサービスを提供します。

つくりだす



県立図書館は、豊富な資料と調べものの専門家である司書を通じて、身近な疑問や地域・社会の課題など、知りたい、解決したい、をお手伝いしています。誰もが、生涯学び続けられる環境の中で、自ら情報を集め活用する力を磨き、新たな価値を創り出しています。

推進目標と取組

県民の学習・研究活動を支援し、そこから得た様々な学びの成果を発表する場を提供します

- 司書による図書館活用講座やデータベース活用講座などを開催し、県民の情報収集やその活用を支援します。
- 参加者同士の交流ができる講座や学びたい人が提案して開講できる講座など、新しい課題解決の場の提供に取り組みます。
- 県民の主体的な学びと創造活動に貢献するため、県立図書館を活用して作成した成果物等の紹介や成果発表の機会を提供します。

サービス指標

レファレンスサービスの認知度	現況値(R4～R6の平均値)	65.10%
	R12年度末 目標値	70%以上
レファレンスの受付件数	現況値(R4～R6の平均値)	69,628件
	毎年度 目標値	70,000件以上
県立図書館単独主催講座のうち役に立ったと答えた人の割合	現況値(R4～R6の平均値)	85.90%
	毎年度 目標値	85%以上

第2章 中期サービス目標

子どもの読書と学びを支える図書館

基本的性格 4 よむ はぐくむ

重点目標と取組

子どもたちに豊かな読書体験を提供して、図書館の利用促進と不読率(※8)の低減を目指すとともに、子どもたちが自ら課題を発見し、解決できる力を育む環境をつくります

- 子どもたちに図書館や読書の魅力を伝えるため、新刊児童図書 of 全点収集を継続します。
- 日本語や外国語による読み聞かせ、ストーリーテリング、学生によるおはなし会など、子どもたちが絵本やおはなしにふれる機会を設けます。
- PBL(課題解決型学習)の推進のために、資料を見つけやすく整理・紹介するとともに、デジタル情報の活用にも留意した子ども向けの調べ方講座を実施します。
- 特別な配慮を必要とする子どもたちに読書体験の機会を提供します。
- 司書の仕事を体験できる講座など、子どもたちに図書館を身近に感じてもらう機会を提供します。

※8 不読率
子どもの読書に関する調査で、1か月間に本を全く読まなかった子どもの割合。

推進目標と取組

学校図書館の活動に関わる団体等と連携協力しながら、主体的・対話的で深い学びが効果的に実施できるよう、学校図書館への支援を充実します

- 学校司書や教員向けの研修の実施とともに、学校への図書貸出を通して、児童・生徒の読書活動や学習活動を支援します。
- 学校の図書委員会によるティーンズコーナー(※9)の運営など、児童・生徒の主体的な取組を促して、学校図書館の活性化に貢献します。
- 子ども読書活動推進センター機能の充実につなげるため、学校図書館支援について関係部署、関係団体との情報交換や協議を進めます。
- 特別支援学校など司書未配置の県立学校図書館への支援のあり方について検討します。

※9 ティーンズコーナー
岡山県立図書館では、1階閲覧室の一部を「ティーンズコーナー」として、県下の高等学校等における特色ある読書活動の発表の場として活用し、10代の読書活動の推進に取り組んでいる。

未来をえがく



県立図書館は、市町村の図書館、学校図書館、民間団体等と連携を図りながら、子ども読書活動推進センターとしての役割を果たしています。子どもたちの誰もが、読書に親しみながら想像力と探究心を育み、夢を描くことで、自分の世界をより豊かに広げられるようになっています。

推進目標と取組

子育て中の人や読書ボランティア団体など、子どもに関わる大人への支援を充実します

- 子どもの読書に関わる大人の活動を支援するため、児童図書研究室(※10)の活用についての講座や情報発信を行います。
- 県内の子どもの読書に関する情報を提供したり、ボランティアや学生などと連携した読書イベントを実施したりします。
- 保護者の読書相談に対応するとともに、託児サービスの導入など、子育て中の保護者が安心して県立図書館を利用できる環境の整備に努めます。
- 子どもの読書活動に携わるボランティア人材の確保に向けて、県内の図書館やボランティア団体と協働して養成講座を開催します。

※10 児童図書研究室
岡山県立図書館では、児童向け資料の研究者や図書館児童サービスに関わる大人等が研究するために、児童書を全点購入し、閲覧に供している。教科書センターの分館として現行教科書も置いている。

サービス指標

児童資料の貸出冊数	現況値(R4～R6の平均値)	358,666冊
	毎年度 目標値	360,000冊以上
学校図書館への協力貸出利用率	現況値(R4～R6の平均値)	61.2%
	目標値	最終年度に80%以上
児童サービスボランティアスキルアップ講座の活用度	現況値(R4～R6の平均値)	4.6
	毎年度 目標値	4.5以上

基本的性格 5 のこす つたえる

重点目標と取組

県民や県内の図書館からの資料要求に応えられるように、効率的な資料収集に努め、将来にわたり利用できるよう保存します

- 県民への資料提供と県内の図書館の支援のため、専門書をはじめ幅広く資料を収集・保存し、受入資料は原則永年保存します。
- ボランティアと協力するなどして、資料の保全やデジタル化を行うとともに、所蔵資料を長く利用していくために、キャンペーン等を通して利用者の自発的なマナー向上を働きかけます。
- 県域の資料保存センターとして、郷土資料を中心に県内の図書館等から移管資料の受入を行います。
- 雑誌スポンサー制度(※11)やふるさと納税制度などを活用し、資料収集に役立てます。

※11 雑誌スポンサー制度
雑誌の年間購入代をご負担いただくことで、雑誌の最新号カバーにスポンサー名、裏面に広告を掲載する制度で、スポンサー(広告主)を広く全国から公募している。

推進目標と取組

県民参加で岡山の歴史や文化など郷土関連資料を収集し、広く発信します

- 県民からの郷土情報募集事業や美術館・博物館など外部機関との連携により、最初からデジタルデータとして作られたオープンデジタル資料を含む郷土関連資料を広く収集します。
- 重点収集資料である吉備文化資料、交通文化資料について、魅力ある展示や資料を探す際に役立つ索引などの二次資料の作成により、情報発信を続けます。
- 岡山の歴史や文化への関心を高めるため、デジタル岡山大百科(※12)を使いやすく改善していきます。
- 地域の活字文化の振興のため、地元書店や出版文化事業者等と連携した展示やイベントを開催します。

※12 デジタル岡山大百科
岡山県立図書館の運営する電子図書館システムのこと。図書館の提供するデジタルコンテンツをインターネットを通じて「いつでも」「どこからでも」利用することができる。

わかちあう



県立図書館は、市町村の図書館と役割分担しながら、郷土岡山の地域資料をはじめ、様々な資料を幅広く収集し、後世にわたり活用できるよう、利用しやすく整理・保存しています。誰もが、収集された資料を用いて、文化の継承や情報の発信に役立てることができています。

推進目標と取組

デジタル化された情報に誰もがアクセスしやすくなるよう環境を整え、それらの情報を活用する方法についても広めていきます

- 図書館システムや横断検索システムを使いやすく改善していきます。
- タブレット貸出やWi-Fiの整備など、インターネット上で公開された情報へのアクセスの機会を保障します。
- 県立図書館が保有するデジタルコンテンツのオープンデータ化を進め、自由な利用を促進します。

サービス指標

貸出冊数	現況値(R4～R6の平均値)	1,188,372冊
	毎年度 目標値	110万冊以上
デジタル化した郷土資料点数	現況値(R4～R6の平均値)	25点
	毎年度 目標値	25点以上
デジタル岡山大百科(郷土情報ネットワーク)の閲覧件数	現況値(R4～R6の平均値)	470,028件
	毎年度 目標値	500,000件以上

ロードマップ

			2026	2027	2028
5本の柱	取組方針（オカリブジョン）	第5次中期サービス目標	初動期：サービス基盤の見極め		
1 県民に開かれた図書館	〇多様なニーズに応じたサービスを提供します 〇デジタル技術を積極的に取り入れます 〇安心できる居場所、交流できる場となります 〇県民のみなさんと一緒に、図書館をつくります	①多様なニーズに応じたサービスを提供します	・サビエ図書館の個人利用促進（個人会員登録入館実態調査など）	・ボランティア講座開催	
			・翻訳アプリ、やさしい日本語、館内表示多言語化		
			・手話通訳、要約筆記研究	・イベントのバリアフリー化実施	
			・未利用者へのアプローチ研究	・意見聴取 実施・評価	
2 県民の学びの場としての図書館	〇多様なニーズに寄り添ったサービスを提供します 〇デジタル技術を積極的に取り入れます 〇安心できる居場所、交流できる場となります 〇県民のみなさんと一緒に、図書館をつくります	②デジタル技術に対応したサービスを提供します	・電子書籍の導入 実施 評価・継続		
			・オンライン申請の拡充（利用者登録 施設利用申請ほかのオンライン化検討）		
			・HPの改善、新たな技術の研究		
			・ゾーニング（おしゃべりエリア、グループワークエリアなど）	・進	
3 県民の学びの場としての図書館	〇県内の図書館を活性化します 〇県内の図書館で働く職員を支援します 〇図書館を含む関係機関とのネットワークを広げ、強化します 〇県立図書館に行かなくても利用できるサービスを広げます	③県内や交流拠点として活用されるよう、活動の場所や活動機会の提供などに取り組みます	・高校生、大学生からの企画提案 募集・実施		
			・共生広場、エントランス、有料施設の活用検討	・メディア工房更新	
4 子どもの学びの場としての図書館	〇子どもたちが自分でも課題を見つけて、解決できるような課題を発見し、解決できる力を育む環境をつくります	④子どもたちの学びの場としての図書館	・実習受け入れ、人事交流		
			・イベント等共同開催の拡大（協賛）		
			・県内図書館との情報共有（Webでの情報提供・情報共有）	・分界別担当者会（郷土資料）	
			・サビエ図書館活用推進のためのノウハウ共有		
5 資料の収集・保存・活用	〇資料の収集・整理・保存して利用に役立て、後世に残します 〇デジタル技術を活用して、県立図書館の資料を誰もが利用できる形で共有します 〇みなさんと一緒に岡山の文化や魅力を伝えていきます 〇デジタル情報資源へのアクセスを確保します	⑤県民が図書館の資料を誰もが利用できる形で共有します	・大学図書館協議会等との連携（情報交換機会の拡充）		
			・社会教育施設、行政機関との連携強化		
			・研修、講座のオンライン受講 研修、講座のアーカイブ化		

2029	2030	2031～2035	2035～2040	2040年の望ましい岡山県立図書館
		実働期：サービス基盤固め	飛躍期：オカリブジョンの実現	未来に「つながり・ひろく・いきる」図書館
		継続・展開・拡充	・障害者サービス専門職員の配置 ・外国語専門職員の配置 ・ワンストップ機能の構築 ・福祉団体等との協働体制	県立図書館は、すべての人が情報を得て社会とつながり、交流できる居場所となっています。誰もがライフステージやニーズに寄り添ったサービスを受けることができ、彩りのある豊かな毎日を送ることができています。
実施・評価	・新HP開設 ・システム更新 ・スマホアプリの導入 ・AIを活用した図書館サービスの試行・導入 ・仮想空間での読書案内の試行・導入			
設備・改修（トイレ、書庫、けやきテラスなど）	・大規模改修、長寿命化準備 ・県民提案企画の実施 ・ファンミーティング		・大規模改修 ・リニューアル実施 ・自主活動機種の増設 ・友の会	
準備・実施	・継続			
・読後フォローアップの実施 ・新HP開設 ・図書館ポータル				
・サービスポイントの増設	・研修への相互参加 ・関係機関参加施設の拡充 ・資料移送参加大学の拡充			県立図書館は、ヒト・モノ・コトの架け橋となって、県内外の図書館等をつないだネットワークを形作っています。誰もが、県内のどこにいても充実した図書館サービスを受けられ、情報へのアクセスが保障されています。
・DB、電子書籍の共同利用に関する研究	継続・展開・拡充	・電子書籍共同利用 ・DB共同利用		
開催による発表の場の確保	・人材計画 ・利用促進策策定 ・利用者による成果物の発表			
交流会	・新HP開設 ・まちづくり団体、NPOセンター等との連携			
会の提供（利用者によるミニ講座開催など）	・参加者による自主講座開催、サークル等活動 ・成果発表と参加者交流会			
ボランティア（他向けコンテンツの開発）	・安定的予算確保			
会）	・学校図書館支援センター機能の確立・正規職員未配置学校への支援体制の構築			県立図書館は、市町村の図書館、学校図書館、民間団体等と連携を図りながら、子ども読書活動推進センターとしての役割を果たしています。子どもたちの誰もが、読書に親しみながら想像力と探究心を育み、夢を描くことで、自分の世界をより豊かに広げられるようになっていきます。
・学生ボランティア ・ボランティア交流会 ・多世代交流 ・保育園、幼稚園、児童養護施設、学童保育施設との連携強化				
・読後フォローアップの実施 ・新HP開設 ・図書館ポータル				
・資料の見直し ・寄付の増加 ・双方向データベース ・知識型データベースの実現 ・デジタル化資料の永続的管理提供 ・蔵書スペースの検討 ・経路変更の見直し				県立図書館は、市町村の図書館と役割分担しながら、郷土岡山の地域資料をはじめ、様々な資料を幅広く収集し、後世にわたり活用できるよう、利用しやすく整理・保存しています。誰もが、収集された資料を用いて、文化の継承や情報の発信に役立てることができています。
・岡山読書マップ				
・オープンデータの活用 ・ディスプレイサービスの提供				
・継続				

第5次中期サービス目標の推進

サービス目標の推進に当たっては、来館者アンケートや図書館協議会の評価等を踏まえ、新たに生じた課題にも対応しながら、自己評価を適切に行い、場合によってはサービス目標の見直しを行います。

第4次中期サービス目標の成果と課題

第5次中期サービス目標(令和8年度～12年度)

- 重点的取組を実施するための年度計画を策定します。
- 年度重点事業を決定します。

- 計画に基づき重点的取組を実施します。
- 関係団体との連携協力を留意します。

- 必要な統計データを蓄積します。
- 来館者アンケートを実施します。

- サービス指標の達成度を評価します。
- 重点的取組の実施状況を評価します。
- 図書館協議会による評価を行います。

- 結果を次年度以降のサービスの改善に活かします。
- 必要に応じて計画・指標の見直しを行います。

- 自己評価の結果を公表します。

- 最終的な達成度を評価します。
- 期間中の総括を行います

第6次中期サービス目標(令和13年度～)へ
第5次目標における成果と課題を踏まえて、第6次目標を策定します。

岡山県立図書館 第5次中期サービス目標

令和8年3月

岡山県立図書館

〒700-0823

岡山市北区丸の内2-6-30

電話086-224-1286